




審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2920 号	氏名	田中 佳代
審査担当者	主査	牛島 仁生	(印) 
	副主査	原 頼子	(印) 
	副主査	三橋 聡子	(印) 
主論文題目： 1型糖尿病を持つ娘の妊娠・出産に対する母親の意識への影響要因の構造化			

審査結果の要旨（意見）

本研究は1型糖尿病の娘の妊娠・出産に対する母親の意識に影響を与える因子について、77名程度の無記名アンケートの回答から解析したものである。構造方程式モデリングを用いて、母親の娘の妊娠・出産が困難であると思う感情に関連する様々な因子が抽出された。1型糖尿病の女性が妊娠を望むという現状を正すためには、母親が娘の妊娠の困難さを過大に受け止める事が重要であり、娘の年齢の若い時期からの包括的支援が望まれる。本研究は1型糖尿病の女性の将来の妊娠・出産に向けた対策に重要な示唆を与える論文として評価できる。

論文要旨

本研究は、1型糖尿病を持つ娘の妊娠・出産に対する母親の意識への影響要因の構造化を目的に、出産経験のない1型糖尿病の娘の母親920名を対象に2009年1～3月に無記名自記式質問紙調査を実施した。調査内容は母親・娘の背景、糖尿病の情報・知識・意識、サポート状況、医療従事者との関わり、娘の妊娠の意識である。分析は回帰分析と構造方程式モデリングを行った。久留米大学倫理委員会の承認を得た。

446名から回答を得て（回収率48.5%）408名を分析した。娘の妊娠に対する母親の意識（母親の糖尿病の受けとめ）には、娘の糖尿病をネガティブに思うこと、父親が娘の妊娠を難しいと受けとめること、娘の糖尿病の受容が強く影響し、最近のHbA1c値、母親の健康状態も関連していた。母親の糖尿病の受けとめは、自尊感情、他の1型糖尿病の娘の母と接する機会、主治医以外の医療者の相談者の有無が影響していた。母親が娘の妊娠を難しいと感じることは、娘の将来の妊娠の希望と関連していた。